どらえもん

今年私は定年退職をむかえる。

健康にめぐまれ看護師として働いている私であるが２０代は音大を卒業し、ピアノ教師をしていた。その頃は公園でも子供達のにぎやかな声があり、野球に塾に水泳にと習い事に日々追われる中、私の教室に子供達はピアノを習いに通ってきていた。カバンをひっくりかえし楽譜をひっくり返すと砂がバラバラ……。「どうしたの？」と聞くと「野球していた」「元気やなあ。でも砂は外で出してきてね。」とか「塾の宿題やねん。まってる間にしていい？」と問題集を出す子供達。今思えば大人かおまけのスケジュールの中、習いにきてくれていたのだと思う。しかし今考えても不思議なのは、いつ練習していたのか？ピアノは家で練習しないと教室に来ても弾けないはずなのだが……。

当時私とひとまわりちがいぐらいの生徒も

いた。私も若かったなあと思う。音楽会に生徒を連れて行ったり、映画を見に行こうツアーを教えると企画して行ったり、イベントに行って帰りにバイキング料理を食べたり、ふりかえると楽しい思い出の数々。

そして今、彼等が大阪や東京で会ってくれる。当時の楽屋を宝の山と大事に保管してくれており、発表会で苦労したであろう練習曲をなつかしく弾いている。子供に自分の弾いた曲や本をみせている等話してくれる。発表会ではいつも私の方がドキドキ。1回のその場に練習のすべてが表現され、評価されてしまうから。そんな心配をふっとばすように子供達はいつも見事にこなして成果を披露していた。若さ故にきついこともきっと言っていただろうに、私は今、とても幸せな時間をもらっているとしみじみ思う。音楽を通じて教え子に恵まれ教え子もまた音楽のよろこびや楽しさを子供達や周囲に伝えてくれているから。